

令和8年2月27日(金)、令和7年度の大学院生研究発表会が開催されました。修士課程学生46名、博士後期課程学生20名、合計66名のポスター発表のうち、修士・博士それぞれ3名、計6名の優秀者が選ばれました。今回は、博士後期課程の受賞者へのインタビューと、修士課程の受賞者からのコメントをご紹介します。

ポスター大賞
博士後期課程
受賞者インタビュー



生体機能化学研究系 生体機能設計化学（今西研究室）
博士後期課程3年 中川 優奈

物質創製化学研究系 有機元素化学（山田研究室）
博士後期課程3年 笠原 彰真

環境物質化学研究系 分子微生物科学（栗原研究室）
博士後期課程3年 井上 宙夢

Q1 化学研究所を進学先として
選んだ理由を教えてください。

笠原：もともとは別の大学院の修士課程に在籍していて、そのまま博士課程まで進む予定だったのですが、山田先生が化研に異動されることが決まり、「一緒に来ませんか」とお声がけをいただいたんです。ちょうど私も博士に進学するタイミングだったので、先生についていこうと思い、化研への進学を決めました。

中川：京大の薬学研究科に所属していて、3年生の体験カリキュラムで二木研に通っていました。研究内容に興味があったこと、二木先生がフランクで優しく研究室の風通しが良いと感じたこと、また、他の薬学の研究室よりもかなり広く、ほとんどの実験が研究室内で完結できるほど設備や機械が揃っていたことが決め手でした。

井上：卒業後にどんな研究分野に対して専門性を持っていたいかという点を考慮し、また、栗原先生の人柄に惹かれて進学を決めました。栗原先生はいつも気配りやフォローをしてくださる素敵な指導者で、低温菌の環境適応や微生物の膜のスペシャリストでもあります。先生の元で研究が続けられたら、分子微生物学の良い研究ができて、自身の成長にもつながると考えました。

Q2 実際に化学研究所での
研究活動はいかがでしたか？

井上：すごく刺激的でした。二木研究室と共同開発されたペプチドを使った研究が私の研究の第一歩だったのですが、

そのように学際的な研究が活発に行われているところに魅力を感じます。また、研究を続けていく中で大変なことも多かったのですが、化研には様々な分野の専門家が在籍されていて、その方々のおかげで自身の研究者としての基盤につながるような素晴らしい経験ができたと思っています。

中川：私も研究生活では、うまくいかないことの方がほとんどなのですが、その際に周りの先輩、同期、後輩がよくディスカッションしてくれました。なにより二木先生が本当にたくさん話を聞いてくださり、色々と参考になる提案をいただいたおかげで、自分も粘り強く研究に向き合うことができました。あと、化研の懇親会では薬学分野がむしろレアで、他分野の方々が多く、非常にためになる刺激を受けました。薬学系に多い「研究がどんな治療につながるか」という視点だけでなく、材料系の「現象自体が面白い」というアカデミアならではの重要な視点があることに気付くことができました。

笠原：私が行ってきた有機合成の研究では、分子を新しく合成し、合成した分子の物性や機能を調べるのですが、分子は早い段階でできたもののその物性や機能を新しく見出すところで非常に苦労しました。その際、自分のラボにない測定装置が化研の別の研究室にあることを教えてもらい、研究がとても捗ったんです。化研内の連携のしやすさや風通しの良さのおかげで、良い研究生活が送れたと感じています。あと、化研全体で頻繁に講演会

が開催されていて、専門外の分野でも自由に参加できるので、自分の知見を広げ、成長につなげることができたのではないかと感じています。

Q3 ご卒業後の進路や予定、
目標を教えてください。

中川：製薬企業に就職し、研究の仕事に就きます。企業への就職を選んだのは、研究が「物」として形になるまでの距離がより近いと考えたからです。これからは実際に自分の関わった研究成果を世の中に届けられるように頑張ります。

笠原：研究職として化学系の企業に勤めます。材料関連の研究開発を行う予定なので、在学中に培った知識や経験を活かし、他の分野についても学びながら、社会実装に向けた材料の開発を進めていきたいです。

井上：1年間は現在の研究室で研究員として、その後もアカデミアやどこかの研究機関で研究を続ける予定です。化研での研究生活で、自分は基礎研究がすごく好きだということに気が付きました。今後は基礎研究により情熱を燃やし、いつかは微生物学の教科書に一筆書き加えられるような研究成果をあげることを目標に、楽しみながら続けていきたいです。



令和7年度
大学院生研究発表会
受賞者



ポスター大賞（博士後期課程）		
最優秀賞	生体機能設計化学	中川 優奈
優秀賞	有機元素化学	笠原 彰真
優秀賞	分子微生物科学	井上 宙夢
ポスター大賞（修士課程）		
最優秀賞	生体機能設計化学	吉川 あゆみ
優秀賞	分子微生物科学	高野 遥
優秀賞	ナノスピントロニクス	吉田 笙子

ポスター大賞 修士課程 受賞者コメント

細胞の研究に欠かせない、
普段の実験で愛用している
マイクロピペットとともに
撮影！



生体機能化学研究系
生体機能設計化学（今西研究室）
修士課程2年 吉川 あゆみ

この度はポスター大賞にご選出いただき、誠にありがとうございます。分野の異なる研究者が集う発表会で、研究を伝えたい、理解したいという双方の情熱を感じました。受賞を励みに、今後も探究心を忘れず精進してまいります。博士課程では、mRNAワクチンへの応用を目指し、コアセルバートによる細胞内送達の高効率化に取り組んでまいります。

研究生活の思い出が詰まった、
マイクロピペットと
実験用タイマーを手に
撮影した一枚！



環境物質化学研究系
分子微生物科学（栗原研究室）
修士課程2年 高野 遥

この度は荣誉ある賞をいただき、ありがとうございます。ご指導くださった栗原先生、川本先生に心より感謝申し上げます。優秀な先輩方の姿に博士課程は務まらないと感じ、修士で卒業しますが、今回の受賞で研究を離れることに少し名残惜しさを感じています。春からは社会で、化学研究所で培った学びを大切に歩んでまいります。

研究ノート、お気に入りの
トリケラトプスが
プリントされたペンケース
（キーホルダーにもトリケラトプスが）
とともに撮影！



材料機能化学研究系
ナノスピントロニクス（小野研究室）
修士課程2年 吉田 笙子

今回の受賞は、化学研究所において研究に専念できる環境に恵まれたことに加え、研究室の皆様をはじめ多くの方々から温かいご指導とご助力を賜ったおかげだと感じております。今後も、自身の研究の内容や面白さを分かりやすく伝えることを意識しながら、社会に貢献できる研究者を目指し、感謝の気持ちを忘れず、より一層精進してまいります。

Pick! 第10回有機若手ワークショップ：若手集う知の広場

2025年11月10日に第10回有機若手ワークショップを化学研究所で開催しました。本ワークショップは、京都大学理学研究科化学専攻の有機系研究室の学生が主体となって運営しています。今回も国内の新進気鋭の若手研究者5名にご講演いただきました。当日は68名の学生が参加し、大盛会となりました。学生向けの講演ということで、講演者の皆様には、基礎から専門的な

内容まで丁寧に解説していただきました。質疑応答の際は、全ての質問が学生から寄せられ、活発な討論が行われました。また、研究内容に加えて、先生方ご自身の経験談を交えながら、研究に取り組む姿勢についてもお話いただき、参加した学生にとって大きな刺激となりました。

物質創製化学研究系 有機元素化学
博士後期課程2年 畠中 峻志

